



第7383号

2021年11月10日(水)

## あすが 1000年に1度の日？

防災システム研究所所長 山村武彦

### ◆見たい現実しか見ない

講演の冒頭、「この付近で大地震が起きると思いますか？」と聞くと、地域や属性で多少の差はあるものの、たいてい8割～9割の手が挙がる。続けて「今夜かあす、大地震が起きるかもしれないと思う人？」に、今度は2割ほどに激減する。

「人間ならば、誰にでも現実のすべてが見えるわけではない、多くの人たちは見たいと欲する現実しか見ていない」。古代ローマの英雄ユリウス・カエサルの言葉である。不都合な現実は見ず、大地震は発生するだろうが、それは先の話で、正常な状態がまだ続くと自動思想的に処理する。

そうした認知心理を正常性バイアスと呼ぶ。バイアスとは偏りを意味する心理学用語。さまつな出来事に過剰反応しては疲弊してしまうので、「この状況は正常の範囲」と、経験や知識で仕分けする心の安全装置でもある。

しかし、それが偏り過ぎるとリスクを増大させる恐れがある。もし今、「あす大地震が起きる」と言われたら、誰もが慌てて水・食料を買いに走り、必死で対策に取り組むに違いない。ところが、地震はずっと先だと認知すれば、形式的対策で満足してしまう。

### ◆油断招く地震発生確率

熊本地震に襲われた某企業では、コンピュータ機器のサーバーラック(専用棚)が転倒大破し、業務再開まで半年を要した。サーバーラックは床にコンクリートボルトで固定されていたが、前震の28時間後に発生した本震で倒れたという。

本震を引き起こした布田川断層帯は数万年～数千年単位で動いていると推定され、向こう30年以内の地震発生確率は「ほぼ0%～0.9%」(地震調査委員会)とされていた。その企業担当者は地震発生確率を聞いて、熊本では当分、地震は起きないと思い込んでいた。

結果として形だけの対策になっていた」と総括したが、油断を招いた地震発生確率の発表方法にも課題を残した。都合の良い情報だけでなく、念のため最悪を考慮し、重要機器や家具類は床だけでなく、天井や壁など複数個所を複数器具で固定しておくことが重要だ。

### ◆まさかきょうだったとは…

防災関係者間で最近よく耳にするのが「1000年に1度」という言葉。2015年の水防法改正で、1000年に1度程度の確率で発生する降雨量(想定最大降雨量)を基準に浸水想定区域図が作成されることになった。

11年の東日本大震災は1000年に1度と言われる超巨大地震だった。某自治体の防災課長からのメールは「地震や津波はいつか起きると思っていました。しかし、それがまさかきょうだったとは…。想定の上を2倍を超える津波に翻弄(ほんろう)され、住民を守り切れなかった」。じくじたる思いと慟哭(どうこく)だった。

向こう30年以内の発生確率が70～80%の南海トラフ巨大地震。最悪の場合、マグニチュード9.1という1000年に1度の規模になり、犠牲者は東日本大震災の約17倍に上る32万3千人と想定されている。

これは30年後の話ではなく、現在の発生確率である。我々は今、超大型の時限爆弾を抱えているのだ。「もしかしたらあす、1000年に1度の大地震が発生するかもしれない」と思って、命を守る対策を急がなければならない。悲観的に準備すれば楽観的に暮らせるのだから。(やまむら・たけひこ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003